



宝樹
寶樹

画：諫山 宝樹

都をどり 令和7年 **4月1日(火) ▶ 30日(水)** [第1回目 1st] 12:30~ 1日3回公演
 MIYAKO ODORI April 1st~30th, 2025 4月15日(火)は休演日となります。 There will be no performance on Tuesday, April 15. [第2回目 2nd] 14:30~ 3shows per day
 [第3回目 3rd] 16:30~ 公演時間60分
 Running Time 60min

茶券付一等観覧券 **¥7,000** / 一等観覧券 **¥6,000** / 二等観覧券 **¥4,000** / 学生券(二等観覧券) **¥2,000**
 First class seat and tea ceremony First class Seat Second class seat
※日本国内の中・高・大学・専門学校で当日学生証を提示できる方が対象です。

チケット好評発売中
Tickets ON SALE NOW



都をどり 検索
www.miyako-odori.jp
 Web

会場
 Venue

祇園甲部歌舞練場
 京都市東山区祇園町南側570-2
 The Gion Kobu Kaburenjo

問合せ
 Contact

TEL.075-541-3391
 電話受付時間 / 平日午前10時~午後5時

主催 / 学校法人八坂女紅場学園・祇園甲部歌舞会 協力 / 公益社団法人京都市観光協会

演題 『都風情四季彩』

みやこのふせいしきのいろどり

都をどりは昨年、明治五年の第四回から数えて百五十回目の節目の年を迎えました。二昨年には、新祇園甲部歌舞練場が開場しております。そのような節目をこえた本年は改めて、京都の名所とその由緒に目を向け、都の豊かな歴史と文化を辿る構成にいたしました。

第一景 銀襖

置歌

全景の序曲となる景です。両花道から登場した芸妓舞妓が公家御殿ゆかりの銀襖の前で全景の見どころを舞います。

第二景 梅宮大社

うめのみやたいしやはいのかのさかり

梅宮大社 梅花盛

第二景は梅の景。当年の恵方を取り入れる習わしです。本年の恵方は西南西。酒造守護や音楽芸能の神としても信仰される梅宮大社の春を梅の香とともに味わってください。

第三景 宝鏡寺

ほうきようじひいなかあそび

宝鏡寺 雛遊

歴代の皇女が入寺した尼門跡寺院である宝鏡寺は、父たる天皇が贈った人形が所蔵され人形の寺とも呼ばれます。雛遊びに興ずる舞姿はひな祭りながらの雅やかさです。

第四景 海辺漁師の家

はまぐりそうしとわのさかえ

蛤草紙 永遠繁栄

昔話としても親しまれる室町時代の御伽草子の中でも特におめでたい「蛤草紙」をもとにした景です。蛤を助けたことから思わぬ幸運に恵まれ、母子ともに繁栄する「孝行者」に福が来るというおめでたい物語です。

第五景 五条橋

うしわかんけいこじょうはしのであい

牛若 弁慶 五条橋 出会

「義経記」によると牛若丸と弁慶は五条天神社で出会って清水寺で勝負しますが「日本昔噺」や唱歌では五条橋が舞台です。対照的な二人の舞姿をご堪能ください。

第六景 清水寺成就院

きよみずでらじょうじゆいん

清水寺 成就院 紅葉舞

牛若 弁慶の対決の舞台とも近い清水の成就院には月の庭と呼ばれる庭園があります。江戸初期の代表的な借景式庭園を背景とした紅葉の景です。

第七景 妙満寺

みょうまんじゆきみのざしき

妙満寺 雪見座敷

妙満寺の雪の庭を望む座敷を舞台とした雪の景です。比叡山を背景とした美しい雪景色を背景に芸妓舞妓の優雅な舞をお楽しみください。

第八景 平安神宮

へいあんしんぐうさくらのかくも

平安神宮 桜雲

御鎮座百三十年の式年を迎える平安神宮の神苑で、都をどりに携わった文豪谷崎潤一郎が魅了した満開の桜を背景に華やかなフィナーレを迎えます。

京都の春の風物詩として150年 次の未来へ

「都をどりはヨーイヤー」の掛け声で始まる「都をどり」は明治5年(1872)に創始され、150余年の歴史を刻んでまいりました。第一回目は文明開化真っ只中の京都で開催された京都博覧会を盛り上げるために上演されました。以来、京都に春を呼び込む風物詩としてご愛顧いただいております。約1時間の上演中は幕を一度も下ろすことなく、全八景で春からその次の春へと四季を巡ります。各場面は日本全国の名所旧跡や古典文学を取り入れ、毎年新作しており、歌人吉井勇が作詞、作家谷崎潤一郎が監修、画家堂本印象がボスター原画や舞台背景画を担うなど、錚々たる作家陣が制作に参加した時代もございます。時代を代表する文化人をはじめ、多くの方々に愛されてきた「都をどり」の創始200年に向けて芸の道へと邁進する祇園甲部の芸妓舞妓が織りなす華やかな舞台をご堪能ください。

Miyako Odori: 150years and into the future as a symbol of Spring in Kyoto
The Miyako Odori was established in 1872, and has since celebrated over 150years of history. It has long been cherished as a seasonal spring tradition in Kyoto. The performance runs for about an hour without ever lowering the curtain and it progresses through eight scenes that showcase the changing seasons from spring to the following spring. Each scene incorporates famous historical sites and classical literature from across Japan, with new works created every year. Please immerse yourself in the splendid performances presented by the geiko and maiko of Gion Kobu, who continue to dedicate themselves to mastering the art of their craft.



※写真は前回の公演より

祇園甲部歌舞会

アクセス
Access



京舞井上流と祇園甲部

京舞井上流は18世紀末に近衛家へ出仕していた初世井上八千代によって創始されました。二世井上八千代が私淑した能楽や人形浄瑠璃などを取り入れながら女性のみで伝承されてきました。現在は五世井上八千代が振り付けをしております。都をどり初演時に一力亭九代当主、杉浦治郎右衛門と三世井上八千代との間で交わされた「祇園甲部の舞は井上流のみとする」との約束から、祇園甲部と京舞井上流の関係が今日まで受け継がれています。

Kyomai Inoue School and Gion Kobu Kyomai Inoue School was founded in the late 18th century by the first Yachiyo Inoue, who served the prominent noble Konoe family of the time. The second Yachiyo Inoue later integrated elements from Noh theater and Bunraku puppet theater into the school's repertoire and the tradition was carried on only by women. Today, the fifth Yachiyo Inoue is responsible for the choreography of the Miyako Odori. The dances of Gion Kobu are performed exclusively by the Kyomai Inoue School.

「立礼式」のお茶席で一服を愉しむ

裏千家十一世玄々斎千宗室が考案したテーブルと椅子を使って行われる茶道点前「立礼式」が初めて一般に披露されたのは明治5年「都をどり」のお茶席からでした。正座が困難な外国からの賓客をもてなすために誕生した点前で、「都をどり」ご観覧前に芸妓舞妓の優美な所作をご覧いただきながら、お茶をお楽しみいただけます。つなぎ団子の模様があしらわれた菓子皿はご来場記念にお持ち帰りください。令和5年(2023)に改修された池泉回遊式庭園も都をどり開演前に、お茶席とあわせてお楽しみください。

A moment of bliss in a Rurei-style tea ceremony The Ryurei-style tea ceremony uses tables and chairs. This style was created to accommodate foreign guests and was first introduced to the public during the Miyako Odori tea ceremony in 1872. Please enjoy a bowl of tea, a moment of bliss, before the performance.

お茶席時間
Tea ceremony schedule

1回目 / 1st
11:30~

2回目 / 2nd
13:30~

3回目 / 3rd
15:30~

お茶席は1時間前より行っております。お茶席へは開演40分前までにご入場ください。公演終了後のお茶席はございません。The tea ceremony will begin one hour before the performance starts, so participants for the tea ceremony, please arrive 40 minutes before the start of the performance. Please note that there will be no tea ceremony after the performance.

阿闍梨餅本舗



満月

京都市左京区鞠小路通今出川上ル
電話 (075)791-4121 番(代)

創業明治17年
SINCE 1884

京名物 夷川五色豆
京の豆菓子 各種



豆政
MAMEMASA

京都市中京区夷川通柳馬場西入 6-264
https://www.mamemasa.co.jp / 電話 075-211-5211

聖

つぶあん入り生ハッ橋

聖護院ハッ橋総本店

京都市左京区聖護院山王町六 電話 075(761)5151

千枚漬本家 創業慶応元年



大藤
だい とう

京都・麩屋町錦下ル TEL075(221)5975
http://www.senmaiduke.com/

京名物 七味唐がらし



七味家
清水寺参道

京都市東山区清水二丁目221 電話 075-551-0738

一保堂茶舗
IPPODO TEA



京都市中京区寺町通二条上ル ☎075-211-3421